

Economic Indicators

発表日: 2019年5月31日(金)

景気動向指数(2019年4月)の予測

～基調判断は2ヶ月連続の「悪化」。早ければ7月分で上方修正の可能性ありだが・・・～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

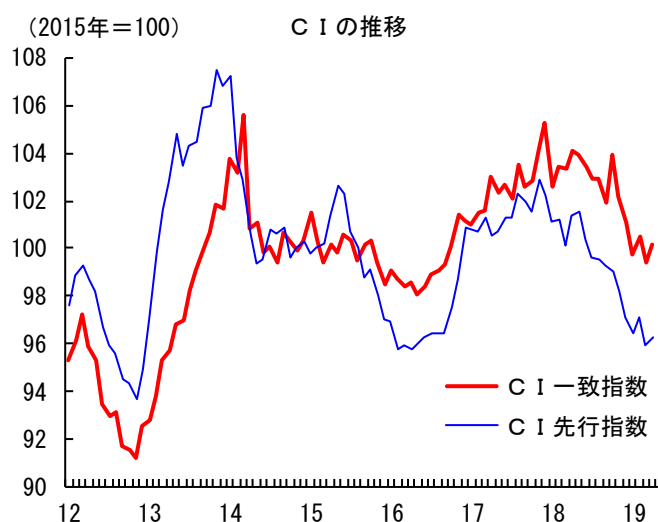
○C I 一致指数は2ヶ月ぶりの上昇に

内閣府から6月7日に公表される2019年4月の景気動向指数では、C I 一致指数は前月差+0.8ポイントと予想される。内訳では、耐久消費財出荷指数や卸売販売額などの押し上げが大きい。2ヶ月ぶりの上昇ではあるが、3月の落ち込み分(前月差▲1.1ポイント)を取り戻すほどではなく、引き続き低調に推移しているとの評価になるだろう。

○基調判断は2ヶ月連続で「悪化」。7月分で上方修正の可能性も？

内閣府によるC I 一致指数の基調判断は「悪化」が予想される。3月分で、それまでの「下方への局面変化」から「悪化」へと下方修正されていたが、4月分でも悪化判断が維持されるだろう。4月分が予想通りの数字になれば、3ヶ月後方移動平均の値は+0.16¹と18年10月以来のプラス転化となるが、「下げ止まり」への上方修正の条件となる0.90には至らない。内閣府による「悪化」の定義は「景気後退の可能性が高いことを示す」であり、昨年末以降の景気が事後的に後退局面と認定される可能性があることが示唆されている。

さらに先について検討してみよう。基調判断が「下げ止まり」に上方修正されるためには、(4月分が予想通りと仮定)5月分で前月差+2.6ポイントが必要になる。生産予測指数からみて5月のC I 一致指数はプラスになりそうだが、+2.6ポイントの上昇となるとさすがにハードルは高く、上方修正は難しいだろう。また、5月分がそれなりのプラス幅で、6月分も上昇となれば上方修正の基準を満たしそうだが、生産予測指数では6月が大きめのマイナスとなっており、C I 一致指数もマイナスになる可能性が高そう。その月の符号がプラスでなければ基調判断の上方修正はできないという決まりがあるため、6月分での上方修正も難しいだろう。少なくとも6月分までは「悪化」判断が続くとみるのが自然だ。ただ、その次の7月分については「下げ止まり」への上方修正も十分



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2019年4月は第一生命経済研究所による予測値

¹ 6月3日に公表される法人企業統計の結果次第で、過去の値が遡及改定される可能性がある。この値は現時点での数値をもとにしている。

ありうることには注意が必要だ。この先、C I の落ち込みが回避されるという条件付きではあるが、7月分の景気動向指数（9月6日公表予定）には注目しておきたい。

ただ、そう上手く事が運ぶかどうかは分からない。激化する貿易戦争の悪影響が今後顕在化する可能性があることを踏まえると、輸出動向には不安が残るところであるし、10連休効果が剥落した後の個人消費動向にも不透明感が強い。現在公表されている経済指標からは、1-3月期に急速に悪化した後、4月以降については悪化ペースが緩んでいるように見えるが、楽観するにはまだ早いだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

